

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	現代社会A	
科目基礎情報							
科目番号	01135			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育			対象学年	1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	「公共」(数研出版)／「フォーラム 公共」(とうほう)						
担当教員	北野 孝志						
到達目標							
(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。 (イ)人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、人としていかに生きるべきかについて考えることができる。 (ウ)様々な資料から適切に情報収集し、複数の情報を整理・構造化して論理的に表現することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)	現代社会の諸問題について十分に理解し、現実の問題に当てはめて考察することができる。			現代社会の諸問題について、それぞれの基本的事項を理解し、説明できる。		現代社会の諸問題について、それぞれの基本的事項を説明できない。	
評価項目(イ)	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、人としていかに生きるべきかについて自分なりに考えることができる。			人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、説明することができる。		人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、説明することができない。	
評価項目(ウ)	現代社会の諸問題について、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりすることで、考えを深めることができる。			現代社会の諸問題について、資料を活用して探究し、その成果について論述したり討論したりすることができる。		現代社会の諸問題について、資料を活用して探究したり、討論したりすることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理							
教育方法等							
概要	この授業では、現代社会が持っている様々な特質を取り上げ、それらが持っている課題について主体的に考える。また、青年期の特徴を理解し、現代社会における青年期の課題についても考える。そして、現代社会における生きがいとは何かという問いに対して主体的に考え、自分なりの結論を導き出していくことができるようになることを目標とする。						
授業の進め方・方法	授業の前半には授業内容について概要を説明し、後半の時間でグループに分かれて作業やディスカッションをしたり、関連したテーマで個人発表したりする。授業の理解度の確認のため、まとまりごとに小テストを実施する。						
注意点	適宜時事問題を取り上げていくので、新聞やテレビのニュースに関心を払い、興味深い話題については自分なりの考えを持つようにすること。議論の際には積極的に参加し、自分の意見を述べるができるようにしておくこと。						
選択必修の種別・旧カリ科目名							
選択必修 (社)							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
必修修							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	現代社会の特質 (授業へのイントロダクション)		(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。		
		2週	科学技術の発達と生命の問題: バイオテクノロジー (遺伝子操作、クローン問題)		(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。		
		3週	科学技術の発達と生命の問題: 死の問題 (脳死と臓器移植、安楽死と尊厳死)		(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。		
		4週	地球社会の課題と環境: 資源・エネルギー問題 (様々なエネルギーと循環型社会)		(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。		
		5週	地球社会の課題と環境: 地球と地域の環境問題、環境倫理		(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。		
		6週	高度情報社会: 高度情報化のメリットと高度情報社会の今後		(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。		
		7週	高度情報社会: 高度情報社会の課題、情報リテラシー		(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。		
		8週	国際社会と日本人: 国際化とグローバル化 (異文化理解と多文化主義、国際人としてのあり方)		(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。		
	2ndQ	9週	国際社会と日本人: 戦争と平和 (人類の福祉と平和の課題、世界平和と国連)		(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。		
		10週	国際社会と日本人: 人口・食糧問題、豊かさと貧困		(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。		
		11週	家族・地域社会: 少子高齢社会		(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。		
		12週	家族・地域社会: 男女共同参画社会、社会福祉		(ア)将来技術者を目指す者として、現代社会の特質や課題について理解し、説明することができる。		
		13週	青年期: 青年期の意義と課題、青年期の自己形成		(イ)人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、説明することができる。		
		14週	青年期: 欲求と適応、生きがいについて (自己実現と幸福、社会参加とボランティア活動)		(イ)人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、説明することができる。		
		15週	授業のまとめ		(ウ)様々な資料から適切に情報収集し、複数の情報を整理・構造化して論理的に表現することができる。		

		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科学	社会	社会	これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにしつつ、より良いキャリア構築を含む生涯にわたる多様な自己形成に関する考え方、他者と共に生きていくことの重要性、及び望ましい社会や世界のあり方について考察できる。	3	前13,前14
				現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定し、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12
	工学基礎	技術者倫理	技術者倫理	科学技術の発達が社会、環境、人々に対して与える影響や変化について説明できる（応用倫理学を含む）。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7
分野横断的能力	汎用的技能	情報収集・活用・発信力	情報収集・活用・発信力	デジタルツールを含む種々の手段や各種メディアを活用し、情報を収集できる。	3	前15
				信頼性・妥当性・有効性などを考慮しながら情報を検証・評価できる。	3	前15
				自己及び他者の権利に配慮し、適切な方法を用いて情報を活用し、効果的に情報発信できる。	3	前15
		思考力	思考力	複合的な事象や出来事を分析できる。	3	前15
				情報や主張を批判的に検証できる。	3	前15
				情報や主張を説得的に提示するための方法を考えることができる。	3	前15
		課題発見力・問題解決力	課題発見力・問題解決力	直面している事象や出来事を分析して、対応すべき問題を特定できる。	3	前15
				現状を分析した上で、実現すべき理想との乖離（ギャップ）の中に含まれる課題を把握できる。	3	前15
				問題の解決、理想の実現のために達成すべき目標を設定し、また、具体的な行動案を検討できる。	3	前15
	基盤的資質・能力	主体性	主体性	自分が果たすべき役割や行動について認識できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前15
自分が果たすべき役割や行動を実践できる。				3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10	
評価割合						
		定期試験	課題	小テスト	合計	
総合評価割合		70	5	25	100	
基礎的能力		70	5	25	100	